

| | | | | | | | |
|------|---|------|-------|--|----------|------|------|
| 科目名 | 建設環境工学演習 I Practices in Civil Engineering I | | | 担当教員 | 長谷川 雄基 | | |
| 学年 | 3年 | 学期 | 後期 | 履修条件 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 分野 | 専門 | 授業形式 | 講義・演習 | 科目番号 | 17134016 | 単位区分 | 履修単位 |
| 学習目標 | 基礎力学 I(2年)や構造力学 I(3年)などで学んだ基礎の定着をはかり、公務員試験や就職採用試験に対応できるよう効率の良い解法のテクニックを学ぶ。 | | | | | | |
| 進め方 | 地盤工学や構造力学の基本事項について再学習し、基本問題や簡単な応用問題を演習する。授業の前半は、各自が演習問題に取り組み、その後解説を行なう。適宜、プリントを配布する。 | | | | | | |
| 学習内容 | 学習項目(時間数) | | | 学習到達目標 | | | |
| | 1. はじめに(2) (1) ガイダンス 2. 物理, 数学(4) (1) 静的な力のつりあい (2) 等速・等加速度運動 (3) 微分・積分, 図形など 3. 構造力学分野(4) (1) 様々なはり, 断面力 (2) トラス 4. 土質力学分野(4) (1) 土の基本的な性質 (2) 土の強度, 強度試験 | | | <ul style="list-style-type: none"> 各項目の基本的な事項を理解し, その概要を説明することができる。 短時間で設問の意図を理解でき, 効率よく解答を導くことができる。 繰り返し演習問題を解くことで, 問題を見た瞬間に解き方が頭に浮かぶようになる。 (C-1, C-2) | | | |
| | [後期中間試験](2) | | | | | | |
| | 5. 物理, 数学(4) (1) 仕事とエネルギー (2) 場合の数と確率 (3) 数列 6. 構造力学分野(5) (1) ひずみと応力度 (2) 影響線 7. 土質力学分野(4) (1) 土中における水の流れ | | | <ul style="list-style-type: none"> 各項目の基本的な事項を理解し, その概要を説明することができる。 短時間で設問の意図を理解でき, 効率よく解答を導くことができる。 繰り返し演習問題を解くことで, 問題を見た瞬間に解き方が頭に浮かぶようになる。 (C-1, C-2) | | | |
| | 後期末試験 | | | | | | |
| | 試験返却(1) | | | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 評価の内訳は, 演習問題・小テストを 50 (%), 定期試験結果を 50 (%) とする。 評価 60 (%) 以上を合格とする。 | | | | | | |
| 履修要件 | 特になし | | | | | | |
| 関連科目 | 基礎力学 I(2年) → 構造力学 I(3年) → 建設環境工学演習 I(3年) → 建設構造設計学(4年) | | | | | | |
| 教材 | 演習用プリントを配付する。 | | | | | | |
| 備考 | 再試験の条件を満たす等, 必要と判断した場合のみ, 再試験を実施する。単位追認試験は実施する。 | | | | | | |